



All the Beauty and 美と殺戮のすべて the Bloodshed

アメリカの写真家ナン・ゴールデイン氏は、鎮痛薬の危険性を隠蔽しながら巨万の富を築いた製薬会社に立ち向かい、美術界を巻き込むラディカルな抗議活動を展開した。その活動を記録したドキュメンタリー映画、『美と殺戮のすべて』（2022年）から浮かび上るるのは、芸術とアクティビズムが交差する地平のクイアな破壊力である。映画を鑑賞したのち、アメリカ美術とジェンダー研究が専門の江崎聰子氏に作品解題をお願いし、ゴールデイン氏が問いかける現代資本主義社会とフェミニズム・アートの問題系を深く掘り下げていただく。

美と殺戮のすべて ALL THE BEAUTY AND THE BLOODSHED © 2022 PARTICIPANT FILM LLC. ALL RIGHTS RESERVED. 2022年製作 アメリカ 上映時間：121分
音声：英語 日本語字幕 映像提供：株式会社クロックワークス



報告 江崎 聰子（聖学院大学人文学部准教授）

司会 舌津 智之（立教大学文学部教授・アメリカ研究所所長）

2026年3月7日(土) 14:00～17:00

立教大学池袋キャンパス 7号館 7101教室

事前申込制・入場無料

R15+ 指定 15歳以上は
ご観になれます

お申込はこちら
(定員 先着200名)

